

記入日 2024年 10月 23日

助成団体名 本願の会

2023年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	魂石安置式「水俣が私に問う日」の実施恒例化
取り組み実施期間 または日時	令和5年11月～令和6年9月

【取り組み目的】

本願の会は、自分たちが水俣に願っているのではなく、水俣が私たちに願っていることを各人が自分自身に問いかける事を本願としています。自分自身に問いかけながら石を彫る活動を月に一度ずつ行っています。既に亡くなられた多くの患者さんたちや石牟礼道子さんをはじめ関りのあった方々の思いを引き受けていっています。完成した魂石(石仏、お地蔵さん)は、水俣湾埋め立て地親水護岸に安置していています。1994年に活動が始まってから現在まで 55 体の魂石を安置してきました。前回の安置式は、熊本地震のあった2016年の9月28日でした。コロナ感染拡大により間あきました。これまで安置式に名前がありませんでしたが、今後一年に一度、水俣が私に問う日と命名し執り行う事としました。一年に一度共鳴できる様々な人が集い語り合う機会を創出したいと思います。

【取り組み内容と成果】

- 一年間に彫りあがった魂石（地蔵、石仏、石像）をエコパーク水俣親水緑地に安置する事を目指して、月に一度集まって石彫を行った。今年度は、天気の影響で思うように石彫が進まず、あと少しで完成と言う魂石が6体程あったが、完成体は、できなかった。



患者、市民に行政関係者が石彫に参加する事になり、様々な立場や関りの中での四方山話は、大変興味深い内容が深く掘り下げられ、休憩時間に話される。

- ただ設置するのではなく、その場において、何らかの表現活動や交流活動を実施し、魂石の魂入れを行った。
今回は、タイトルに「水俣が私に問う日～甦れ！いのちのにぎわい」とサブタイト

ルを加えた。人類の未来、水俣の未来を信じるために石を彫り、祈り続ける。祈りを捧げる事は、表現活動に通じる。これまで言葉が優先、優位に立ってきたが、言葉は、対象を限定してしまう事が多い。どこかで言葉に頼らない祈り、表現を模索し続けている。今回は、石牟礼道子さんが縁を付けてくださった重要無形文化財保持者、人間国宝の大鼓奏者大倉正之助さんに御出で頂き、大倉さんを中心に水俣に縁のあるドラム、パーカッション、サクソ、トランペット奏者の方にお集まりいただき、ぶっつけ本番でパフォーマンスしていただいた。日没の時間に合わせ五人が奏でる調べを水俣の海に奉納した。素晴らしい時間を共有する事になった。

今年の本願の会魂石魂入れの行事を記の様にいきます。

昨年は、大倉正之助さんから調、調を奏でると言う素敵な言葉をいただきました。今年は、大倉さんを取り囲むように御縁のある四人の方々にお集まりいただき、石牟礼道子さんと一緒に選んだ御鈴の音に始まる、五人が奏でる調べを水俣の海に奉納します。

それぞれの方が一堂に会した事は、ありません。それぞれの音で自己表現されている方々が、その場でどんな調べを奏でるのか。どんな共鳴が生まれるのか、想像もできないのですが、期待は膨らむばかりです。日の入りは、18時30分です。眼前の不知火海、天草の島々に沈む夕日を眺めながら、日常から離れ、自分と向き合う時間にしていだければと思います。

お時間が許す皆様は、是非、足を御運び下さい。

水俣が私に問う日

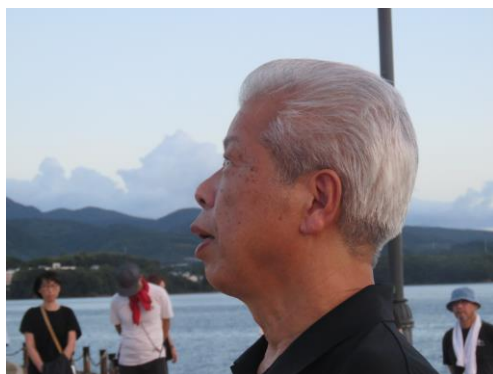


甦れ、いのちのにぎわい

日 時：2024年9月11日 18時15分より
場 所：エコパーク水俣親水緑地中央部慰霊碑前
会 費：1,000円（魂石の石代等に使用します。）
荒天時：オレンジ館集会室



9月11日「水俣が私に問う日、甦れ！いのちのにぎわい」の様子





- 情報発信を行い、老若男女なるだけ多くの人に参加していただいた。通信の発行やチラシ、SNS を使って、「水俣が私に問う日～甦れ！いのちのにぎわい」の実施について周知を図った。様々な参加者が去年の倍、百名程度が集まった。
- プログラム作り、実施記録をデータにまとめ、全体を総括し魂うつれとして出版準備中である。また、VTR 映像データも編集を進めている。同じ様に行事を繰り返して欲しいという意見が出て来た。恒例化が、一歩進んだと感じた。

【備考欄】